

2024 年 6 月 23 日

「アマチュア無線の魅力向上アイデア」提案書

1. 提案者
 - ・氏名（グループの場合は代表者）：
 - ・年齢：
 - ・コールサイン（局免許保有者の場合）：
 - ・連絡先 住 所：
 - メール：
 - ・（グループの場合）代表者以外の構成員の氏名・年齢：
2. 提案カテゴリー（AまたはBを選択） B
 - A 既に開局している若者や初心者にとっての魅力を一層高めるアイデア
 - B アマチュア無線を知らない若者に興味を抱かせ資格取得を動機づけるアイデア
3. アイディア名： 全国の高等学校に科学系の雑誌を配布
4. アイディアの概要（200 字以内）：

内容をしっかり理解してもらうためには、ネットメディアよりも雑誌の方が適していると考え、全国の高校に科学系雑誌を配布することを提案します。

この際にアマチュア無線に限定せず、もう少し広い視点から理系離れ防止や、科学技術人材の育成のアプローチを取ることで、補助金などを得やすくなると思っています。

5. 詳細説明（図表を含めて4頁以内）：

最近、情報を得る手段として雑誌は大幅に減少しています。しかし、内容をしっかり理解してもらうためには、ネットメディアよりも雑誌の方が適していると考えます。

そこで、アマチュア無線に興味を持ってもらうために、全国の高等学校に科学系の雑誌を配布し、図書室に置いてもらうことを提案します。

これらの雑誌を手にとって記事を読んでもらうことで、生徒たちにアマチュア無線や無線技術、電子工作について知ってもらいます。

この際にアマチュア無線に限定せず、もう少し広い視点から理系離れ防止や、科学技術人材の育成のアプローチを取ることで、補助金などを得やすくなると考えています。

より広範な科学技術分野について扱い、理系離れの防止や科学技術人材の育成を目指します。そして、その中から興味を持った一部の高校生がアマチュア無線の資格を取得することを期待しています。

5.1 科学雑誌

文部科学省のデータから高等学校の学校数は約3,500校で、このうち約2,500校が普通科となっている。工業などを学んでいる学校ではアマチュア無線を知るチャンスは多いと思われるので、この提案では普通科をターゲットとする。

アマチュア無線の雑誌そのものとなると内容も偏り、読もうという意識も生まれにくいと考える。

このため広い範囲が扱われているNewton、日経サイエンスといった雑誌に、アマチュア無線の特集を組んでもらい、それが掲載された号を配布する。

同時期の発売となるより3ヶ月ぐらいの時間差があると良いかと思われる。

2冊で約2.5千円、これが2500校なので約6百万を要するが、配布する雑誌側にも高校生の目に触れる機会となることから、全額を負担しなくても良い可能性がある。

また図書館に雑誌が入っていることをPRしてもらうため、ポスターを3枚/校で配ってもらう。ポスターが1万枚で20万、発送に50万として、デザインを含めて150万程度となる。

雑誌の掲載時期を調整することでハムフェアのポスターも同封できると更に良いと考える。

5.2 トランジスタ技術

アマチュア無線より幅を少し広げた電子工作に目を向けてもらうため、トランジスタ技術を配布する。これは工業高校も対象に加えた方が良く考えるので約3,000校が対象となる。

これを実現するには雑誌が1年で約15千円なので約45百万と高額になる。

高校に無償で配布している期間に、アマチュア無線に関係する記事として、アナログ回路で作るラジオ、無線機、さらにはアンテナといった特集と、SDRなど現在の無線では不可欠なデジタル信号処理に関する特集を組む。

いずれかの特集を組む時期は、ハムフェアの広告を掲載するのに適した時期として、会場に来てもらうことを狙う。

5.3 費用の捻出

ターゲットを高校生にしていることから、文部科学省の科学技術人材育成支援として実施することを検討する。

ただ5.2の実施については1社だけの雑誌を配布となると支援が難しいかもしれないので、その場合には前述したNewton、日経サイエンスなど複数から高校に選んでもらう必要があるかもしれない。

6. 参考情報（任意）

- ・ 参考資料：資料名 （PDF ファイルを添付）
- ・ Web 情報：タイトル、URL

高等学校学科別生徒数・学校数

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/shinkou/genjyo/021201.htm